

令和4年度施政方針に掲げる重点施策「文化とこころがふれあうまち」

これからの町政運営には、少子高齢化など、社会構造の変化により多様化する行政ニーズ、頻発・激甚化する自然災害、新型コロナウイルスなどの直面する課題への対応とともに、ポストコロナ時代を見据えた持続可能なまちづくりの施策が求められています。

令和4年度は、「第2次砥部町総合計画」の基本計画更新年度を迎え、基本構想に掲げる「文化とこころがふれあうまち」の実現に向け、前期5年間の施策を検証し、更なる充実を図り、急速に進む時代の変化に対応する自治体DXや、SDGsの推進など、新たな課題に対する後期5年間の方向性を示す重要局面であると考えています。

本町にとって大きな転換期となりますが、次の4項目の基本理念のもと、各種施策を展開します。



重点施策

安全・安心で暮らせるまちづくり

年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域共生社会の実現に向け、地域福祉計画の策定を進め、包括的な支援体制の整備を推進します。また、高齢者の健康増進等を図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与する「ねんりんピック」の令和5年度開催に向け、リハーサル大会を開催します。

長引く新型コロナウイルス感染症への対策として、高齢者福祉施設の利用者に対する支援等を継続します。また、ワクチンの追加接種に対する円滑な体制を確保し、迅速できめ細かな支援により、町民の健康と社会経済活動の維持を図ります。

頻発・激甚化する自然災害への対応として、総合防災マップの更新や、災害発生時における避難行動要支援者の個別支援計画の充実、福祉施設や避難拠点の強化に加え、消防団の処遇改善を行い、

団員確保と消防団活動の活性化を図ります。



未来を担う子どもたちがたくましく健やかに育まれるまちづくり

子育て支援については、児童及び妊産婦の福祉に関し、多様な家庭環境を踏まえた実情の把握に努め、妊婦期から子育て期にわたる切れ目ない支援体制の充実を図ります。また、待機児童解消に向け、麻生及び宮内校区において、令和6年度開園を目指す民間事業者による保育事業等を支援します。

学校教育については、デジタル教育の一層の推進を目指し、



ICT支援員による学習サポート、デジタル教科書の実証実験など、ICTを活用した学びの充実に取り組みます。

社会教育については、国際交流事業の実施、文化財の保全と活用など、引き続き文化振興に寄与するとともに、町民の自主的・主体的な学びを支援し、生涯学習を通じた地域づくりを推進します。また、電子図書館の導入や公民館事業の充実により、町民の生涯学習意欲を喚起するとともに、小中学生を対象に開設する「砥部の里冒険クラブ」での活動など、未来に向けた人材の育成を目指します。

地域資源を活かし人々が 交流するまちづくり

新型コロナウイルス感染症の影響による、産業、観光業の減収等に対する臨時的な支援と並行し、先を見据えた投資的な事業の展開が必要と考えています。

農業については、品質の向上や技術の定着により「紅まごん」の栽培面積を拡充し、愛媛県一の生産量を指すほか、地域産品の六次産業化を支援し、ブランド化や新たな販路開拓などにより、市場競争力の高い産地づくりに取り組めます。

林業については、森林の有する多面的機能を、持続的に発揮する基盤整備を進め、森林経営管理制度に基づき、町が受託した森林の整備を開始します。

観光産業については、3年振りとなる砥部焼まつりや、新たに取組む松山市花園町でのテント市をはじめ、東京アンテナショップ5周年イベントなど、県内外での販路拡大に努めます。また、愛媛国際映画祭に参画し、町の魅力を広くPRします。



県有施設の「とべ動物園」、「えひめこどもの城」、「県総合運動公園」を『とべもりエリア』として、一体的に誘客に取り組む愛媛県との連携を強化し、砥部焼伝統産業会館を中心とする大南地区の活性化と併せ、交流人口の拡大を推進します。

社会基盤強化を図る快適な まちづくり

橋りょう、道路、上下水道施設などの社会インフラについては、災害に備えた安全性の確保、長寿命化対策を講じ、計画的に整備を推進することで、強靱化を図ります。

住環境整備については、実態調査結果を踏まえた空き家等対策計画の見直しのほか、公園などのコミュニティ施設の整備、コロナ禍におけるニーズの高まりを受けた移住施策を展開し、良好な生活環境の保全と地域の活性化に取り組めます。

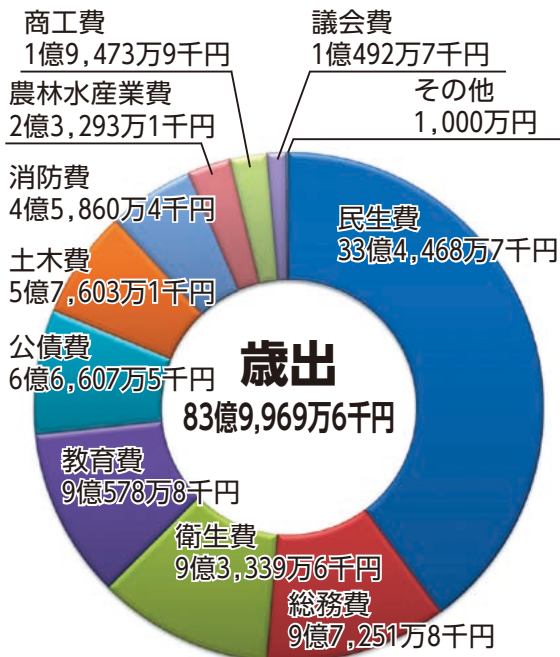
環境分野については、廃棄物処理の広域化による適正処理と、効率的な収集体制の確立を図り、循環型社会の形成に寄与するとともに、公共下水道区域外への合併処理浄化槽の普及促進により汚水処理普及率の向上に取り組めます。

令和4年度当初予算の概要

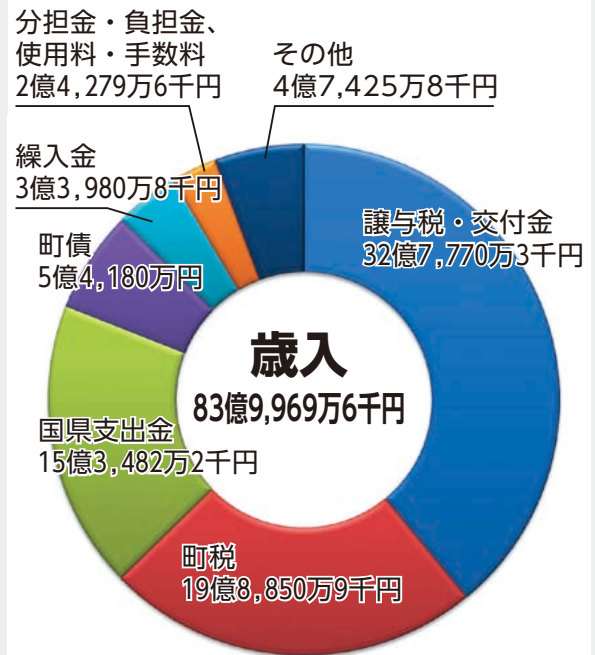
予算総額は153億1,854万3千円（前年度比3.3%増）となり、一般会計では83億9,969万6千円（前年度比5.8%増）です。一般会計が増加した理由としては、社会福祉施設の整備に要する支援等により民生費が増加したことによるものです。特別会計では、国民健康保険事業がコロナ禍による受診控え等の緩和によって保険給付費が増加すると見込むため増加しています。また、令和4年度より農業集落排水事業と浄化槽事業は、公共下水道事業と統合して、「下水道事業会計」となり、地方公営企業法の全部適用を行います。

会計名	予算額	増減	
一般会計	83億9,969万6千円	4億6,420万6千円	
特別会計	国民健康保険事業	24億1,481万7千円	9,457万6千円
	後期高齢者医療	3億3,784万7千円	3,812万2千円
	介護保険事業	23億3,610万3千円	▲5,220万3千円
	とべの館	3,454万3千円	88万5千円
	とべ温泉	5,462万6千円	274万8千円
	農業集落排水	0千円	皆減
	浄化槽	0千円	皆減
	企業会計	下水道事業	10億272万3千円
うち、公共下水道事業		8億5,277万円	7,987万1千円
うち、農業集落排水事業		4,257万円	皆増
うち、浄化槽事業		1億738万3千円	皆増
水道事業		7億3,818万8千円	▲1億7,262万2千円
合計	153億1,854万3千円	4億8,795万4千円	

令和4年度一般会計の内訳



- 民生費** (対前年+ 3億 1,470万 1千円)
障害者福祉事業や児童福祉事業、国保・介護などの特別会計への繰出金など
- 総務費** (対前年+ 5,802万 7千円)
庁舎の事務処理に必要な経費や地域のコミュニティ活動を支援するためなどの経費
- 衛生費** (対前年+ 1億 275万 3千円)
健康づくりのための支援やごみ処理のための経費
- 教育費** (対前年▲ 2億 1,675万 4千円)
学校教育や社会教育振興のための経費
- 公債費** (対前年+ 5,427万 9千円)
町の借金を返済するための経費
- 土木費** (対前年+ 1億 2,262万 9千円)
町道など道路の維持、新設改良のための経費
- 消防費** (対前年+ 1,209万円)
消防活動や災害対策への経費
- 農林水産業費** (対前年+ 909万 5千円)
農業・林業・漁業の振興のための経費
- 商工費** (対前年+ 936万 1千円)
商工業の振興のための経費
- 議会費** (対前年▲ 197万 5千円)
議会運営のための経費
- その他** (対前年 0千円)
予備費



- 譲与税・交付金** (対前年+ 2億6,370万3千円)
一定の計算方法に基づいて国から交付される地方交付税など
- 町税** (対前年+ 7,719万 4千円)
町民税 (個人・法人)、固定資産税、軽自動車税、町たばこ税
- 国県支出金** (対前年+ 7,650万 4千円)
国や県が、町が行う事務に対して支払う負担金、町の事業を支援する補助金、国や県が行う事務を町に委託した場合に支払う委託金
- 町債** (対前年▲ 1億 910万円)
町の借金
- 繰入金** (対前年+ 1億 4,930万 8千円)
基金からの繰入金
- 分担金・負担金、使用料・手数料**
(対前年▲ 1,964万 1千円)
福祉サービスの利用者負担金、各種施設の使用料、ごみ処理手数料などの収入
- その他** (対前年+ 2,623万 8千円)
利子などの財産収入、寄附金、前年度からの繰越金、諸収入など